

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473100970	事業の開始年月日	平成17年7月1日	
		指定年月日	平成17年7月1日	
法人名	(有) しおさい			
事業所名	グループホーム 港南			
所在地	233-0016			
	横浜市港南区下永谷4-2-31			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	H21・11・21	評価結果 市町村受理日	平成22年1月25日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	神奈川県介護サービス情報公表センター
----------	--------------------

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>(1) 介護と医療の融合をスローガンにし同一事業所にクリニックを併設している。24時間体制で診療、往診ができ入所者・家族・職員が安心して過ごす事が出来る。</p> <p>(2) 神奈川県の研修施設に指定されており日常的に研修生がいたり、地域の方が見学に来たり、ボランティアさんが来訪する等開放的な施設である。</p> <p>(3) 施設ではあるが家庭的な雰囲気の中で生活していただけるよう入所者のニーズを気づき、ケアに繋がるよう支援している。</p> <p>(4) 充実した職員体制、常勤職員を多く配置し責任を持ってケアにあたっている。</p> <p>(5) ターミナルケアを実践しており、家族・医師との連携を図りながら入所者さんが最後まで自分らしく生活できるよう、支援している。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成21年12月12日	評価機関 評価決定日	平成22年1月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>◇利用者・家族が安心できる医療・介護の融合： 法人代表が併設クリニックの医師で、利用者の診療、往診にいつでも応える体制をとっている。居宅介護支援事業所や訪問介護ステーションなども併設されており、ケアプランの作成、家族の介護の相談や地域の人たちへの訪問介護にも応ずるなどの専門機能が揃っており、地域に密着した展開をしている。職員への指導も行き届いている。グループとして医療と介護、専門知識と地域を融合した終身型認知症グループホームを目指して実践するとホームページに明記している。看取りの実績も積み重ねている。家族も面会のついでに、クリニックで診察・相談できる利便さがある。そのほかに、歯科医の往診、口腔ケアの指導、訪問マッサージなどのサービスもある。</p> <p>◇「見えないサインを見逃さず」のケア： 「無言のサインを見逃さず」が理念の中にある。1対1の入浴介助で話す親身の会話に本音を読み取り、その結果、日常の介護で輝いていた日々を話題にして心をほぐしたり、車椅子でも摘み取れるイチゴ棚の農園探しをしたりなどの工夫をしている。</p> <p>◇介護サービスの育成拠点としての活動： 当事業所は県の認知症介護実践研修指定施設である。実践者、実践リーダー、グループホーム管理者の研修生のほか入居希望者、開設予定者、市町村職員の見学・体験学習などの指導拠点となっている。研修生・見学者による利用者不安を防ぐため、1回の人数を制限したり、職員が、よそ行きの顔をせず、普通に振舞うよう配慮したりしている。外来者が刺激になり来客を迎えるもてなしの気持ちになる利用者もいる。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

グループホーム港南

事業所名	グループホーム 港南
ユニット名	空

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)
○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)
○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)
○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)
○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)
○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念として掲げている。また、常に職員の目の届くよう更衣室等に掲示して職員全員で理念を共有して実践している。	・「あらゆる場面で寄り添い暮らしを育むケア」など5か条の「めざすもの」を掲げている。事務所や各職員トイレに掲示し研修もしている。職員も大切な文言は知っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の学童保育の子供達と交流を持ったり、近隣のボランティアさんが来訪していただいたり、入所者さんと散策にいった際ゴミ拾いをおこなっている。	・自治会には未加入であるが、学童保育の子ども達が来勢来てくれたり、近隣のボランティアの来訪もある。散歩途中でのゴミ拾いや併設クリニックでホームの食事試食会を行ったりして地域住民の理解に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域（自治会）の回覧板や、文書にて年1回研修会や施設の食事の試食会等を開催している。またいつでも見学ができる体制を取っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月に会議を開催し、GHの活動報告を行い、地域の方と情報交換を行い、意見交換等を行っている。	・運営推進会議は隔月に開催している。運営状況報告は行事写真入りである。民生委員、地域包括支援センター職員、3名の家族などが委員になっている。議事から独居住民の受入れ事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	港南区のグループホーム連絡会に出席し、情報交換を行っている。また、生活保護課との連絡も行っている。	・港南区保護課は毎月来所し、地域包括支援センターとは日常的に交流がある。港南区高齢・障害支援課長も出席のグループホーム連絡会に参加している。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束11個条」をトイレや更衣室に掲示し、常に職員が確認し理解している。日中は玄関を含め、どこも施錠していない。	・身体拘束になる具体例11項を各職員トイレ、更衣室に掲示している。「対応マニュアル」に取扱い要領、記録書式がある。契約書及び運営規定にも行動制限しない旨を明記し契約時に説明している。	・運営規程に“緊急やむを得ない場合”とあります。夜勤等上司がいないときの解釈・判断に「取扱い要領」をすぐ手にできる環境が欲しいところです。気づきも書き込めば見直し改訂ヒントに使えます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を行い、常に職員間で情報を共有する事によりお互いに注意を払いながらケアにあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会等で学ぶ機会を持つようにしている。家族から申し出があった場合は管理者とご家族で話し合い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	1年ごとに契約更新をしておりその際ご家族と十分に話し合い、理解していただいている。また解約の際もご家族の不安のないよう支援している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置したり面会の際には口頭でも意見や要望を聞いている。ホーム内に「第3者苦情解決委員」を掲示し外部者への相談先も分かるようにしてある。	・家族会がある。家族来訪時の意見・要望等は管理者へ報告し指示を受ける。連絡帳で共有化し、利用者関連は日誌にパソコンに入力する。玄関ホールにある職員顔写真付の出勤表は家族意見の反映である。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議での意見、幹部会議での提案等を反映させている。また、管理者から代表へ意見や要望を伝えるとすぐに回答があり短時間で反映できている。	・1人1意見持ち寄りのスタッフ会議を行っている。帰宅願望の利用者に1対1対応と夕方入浴で心を落ち着かせた例が話し合われた。大きい案件は代表者も参加する幹部会議で討議する。クッションフロアは討議結果の反映である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	GHの実績を公にし、将来展望など職員に話している。また、就業規則や給与体系など職員に周知し向上心を持って就労できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修及び内部研修、勉強会に参加する機会を多く設け各自のスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修や同一事業所との交流や他施設は見学に行き交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族の思いをしっかりと聞き、入所後のケアに生かし、本人が安心して生活できるよう支援している。		

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は電話等で本人の様子を知らせている。また暫くは面会の頻度を増やしてもらうようお願いし、本人の不安のないようケアにあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今一番必要とされているサービスを重視し、またGHの環境に馴染んでいただけるよう職員間で統一した処遇に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の持っている機能を発揮できるような場面を提供し、職員と協力し助け合うことでお互い感謝の気持ちを持って暮らしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を立ち上げておりご本人とご家族と一緒に過ごす機会を作ったり面会に訪れやすく、気軽に職員に話しかけやすいような関係づくりを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	24時間いつでも面会に来て頂けるようにしている。家族だけでなく他の面会の方にも気軽に来て頂けるよう声かけしている。届け物があった場合は本人が電話できるよう支援している。	・重要事項説明書に「いつでもおいでください」とあり、気軽に来れるように声掛けしている。馴染みの人との交流として、お茶の元弟子の来訪や毎月外食に連れ出してくれる人がいる。墓参や毎月外泊する利用者もいる。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同一の空間（フロア）で過ごして頂き、レクリエーションや茶話会など入所者さん同士が関わりを持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	代表が医師であることから退所後もご家族の相談があり支援している。（医療面での退所のみ事例の為）		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人担当職員がいてその職員が中心にアセスメントをし、情報を共有して本人の思いを組取る努力をしている。	・アセスメントで生活歴、亡き大切な人、人生観についての思いなどを聞いている。入所1カ月かけて集中的に観察をしている。“無言のサインを見逃さず”は理念の一つである。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面接時、入所時の調査票、アセスメントの「まるごと捉えるシート」等を全職員で閲覧し把握している。また、本人の話の中からも思いを受け止めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間での情報の共有を密にし、日々の観察を行う事で把握に努めている。		

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアプラン会議を持ち、意見を出し合いその方に即した介護計画を作成している。	・サービス計画書に家族の同意署名押印がある。個別記録は色別（青：計画対応、黒：日中、赤：夜間）でパソコン入力し、青字箇所を見れば計画対応の内容が職員・家族等にもわかる工夫がしてある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は3色色分けで記入し（パソコン）全職員がすぐ閲覧できるようになっており、変化や気づきがあれば話し合いを行えるような体制を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてその都度職員間で話し合いの場を設けている。また、家族からの要望があった場合にも職員間で話し合い、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散策時公園でゴミ拾いをしながら地域の方と交流を図っている。またボランティアと散策やレクレーションを通して交流を図っている。学童の子供たちとも定期的に交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一事業所のクリニックにてまた代表の医師がかかりつけ医として診察しており、本人はもとより家族の健康管理についても支援している。	・医療と介護の融合を目指す代表者は併設クリニックの医師である。全員対象の往診（週1回）のほか日常も個別往診している。何時でも家族も含め職員も相談できる機会が常にある。歯科往診、義歯調製もある。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師が同一事業所の看護師で入所者・職員共に馴染みの関係になっておりいつでも情報を共有し適切に受診も受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同一事業所のクリニックとの連携が図られており、病院同士の情報交換が出来ている。また入院先の相談室と管理者が情報交換を行い早期の退院に向け話し合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行う前には家族・医師と十分に話し合い、方針を定め、関わる職員に情報を共有し支援に取り組んでいる。	・ホームページでは終身型と表示し、看取りの指針を見学や入居時に説明している。承諾書に同意印がある。これまで看取り事例が2件ある。併設クリニックの身近な指導・協力が利点となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡網やマニュアルはすぐ閲覧できる所にある。また隣がクリニックなので日中であればすぐに対応できる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は定期的に行っており、役割分担も決まっている。また災害時の緊急連絡網は近隣に住む職員から連絡しすぐに駆けつける体制を取っている。	・食料とヘルメットの備蓄がある。消防立会いの定期防災、避難訓練のほかに職員のみでの夜間訓練では避難シミュレーション体験をする予定もある。近くに住む職員の隣人達による協力体制もある。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	大声を出したりせず、その方を尊重した言葉がけを心がけている。たとえばその方によって「トイレ」「お便所」「お手洗い」等理解できる言葉の使い分けの配慮を行っている。	・理念にはプライバシー重視の項目がある。研修も行っており、個人記録は施錠できるキャビネットに保管している。職員の話しかけも優しく、いねいな口調である。排泄記録表も閉じてさりげなく立ててある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者が自分の思いや希望が話せる場面の雰囲気づくりを行っている。入浴の順番の希望（冬季は夕食後等）散策や外気浴の参加、飲み物の希望、行事時の昼食の希望等		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日のリーダーが当日の天気や入所者さんの様子など観察しながら一人一人のペースに合わせ過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく本人の意思に任せた着替えを支援している。爪切りや整髪などは気を配りながら行っている。月1回の訪問美容も希望によってカット・パーマなども支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じ包丁で野菜を切ってもらったり野菜の下ごしらえ、食器洗い、拭きと職員と一緒にしている。	・代表者は栄養学会の理事で検食と助言をしている。利用者の希望でデザートをアイスクリームにしたり寒い日のおやつを甘酒にしたりしている。利用者の中には、包丁の得意な人、みかんの皮集め係などがいる。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に水分は1500ccは摂っていただけるよう支援している。同じメニューでも状態に応じて普通食・刻み食・ミキサー食と工夫しながら召し上がっていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの援助や毎日夜間の義歯洗浄の支援、入所者によっては口腔スポンジでケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録表を使いその方の排泄間隔を知り、声かけ、誘導を行い、出来るだけトイレで排泄できるよう支援している。（日中は寝たきりの方もトイレでの排泄を促している）	・記録から1人ひとりの排泄間隔をつかみ誘導している。日中寝たきりの人もトイレへ誘導している。午前・午後で排泄間隔が変わる人を医師の助言で服薬調整し改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に水分は十分に摂ってもらいその方に応じた対応を行っている。（便秘2日目から医師の指示でそれぞれの対応表がある）また、なるべく体を動かして便秘改善に繋げている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入所者さんの希望の時間帯に入っていただけるよう支援している。（冬季は夕食後も入浴している）毎日ほぼ全員の方に入浴して頂いている。	・時間を決めず希望に応じて入浴している。夕食後の入浴もある。入浴介助は体調確認に重要な機会と考え毎日の習慣にしている。1対1介助での会話を信頼と貴重な情報機会としている。	

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度やにおいに気を配っている。就寝時間は定めず、徐々に明かりを暗くしたりして安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方説明書はいつでも確認できる所にある。変化があった場合はすぐに管理者に連絡できる体制にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に応じた役割を持ってもらい日々過ごしている。毎月行事ごとを設け楽しんだり天気の良い日には外に出て（散策や外気浴）1日家に閉じこもらないよう気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散策やドライブなど外出の機会を設けている。また1年に一度はご家族と一緒に「家族会親睦行事」として車で的外出を行っている。	・好天の日は車椅子の人も近くの公園まで出かける。玄関先で日向ぼっこの人もある。いちご狩り、日帰り温泉、市電保存館など遠出もしている。いちご棚の高さや貸切露天風呂など事前調査に工夫がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	何人かの入所者さんはお金を所持しており、本人の買い物や写真の代金の支払いなど各自能力にあわせて使えるよう援助している。		

グループホーム 港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からのお手紙は本人に渡している。(定期的に絵手紙を送ってくる家族もいる)届け物があった場合は職員が電話をかけ、本人と替わり話をしてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬は床暖房と加湿器、夏は窓にすだれや換気を良くする等配慮している。また季節ごとに飾り付けをし季節感を出している。台所からの食事のおいなど家庭的な雰囲気も出している。	・クッションフロアで転倒衝撃による事故を防いでいる。床暖房と加湿器4台を使っている。キッチンも洗えるタタミ敷きで足元が暖かい。低い手すり、低い便器などに開設スタッフの考えが入っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、ソファの位置など本人の安心できる場所がある。食事時も気の合う人同士が向かいあって食事が摂れる様工夫している。また廊下にソファを置き1人になれる場所がある		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していた家具などを持ち込んでもらい本人が落ち着けるような場所にしている。全室畳みであり面会の家族も寝転んだり落ち着ける雰囲気を作っている。	・全室タタミ敷きで好みのベッドやマットを使っている。入口にのれんやクリスマス飾りがあり、ガラス窓の内側は障子窓となっている。私物の椅子、こたつ、タンス等の配置は利用者と家族が決める。布団は毎週干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっている。また「トイレ」が認識できるように表示がしてある。手すりの高さの位置、トイレの便座の高さの工夫など自立した生活ができるよう配慮している。		

グループホーム港南

事業所名	グループホーム港南
ユニット名	海

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員トイレ等共有スペースに理念を掲示し、利用者主体のサービスをできるように日々取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散策時、外気浴時には近隣の方と挨拶を交わしたり、散策で公園を利用した際にはゴミ拾いをしたりしている。また近隣ボランティアや近隣学童にも遊びに来ていただいている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設クリニックDrにより、地域の人へ講演会を開いたりまた、居宅介護支援を立ち上げたこともあり、地域の方の相談も行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開き民生委員、地域包括センタークリニック看護師、御家族で集まり、ホーム内の状況、報告、地域の状況等情報交換、話し合いをしサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	神奈川県、横浜市、港南区のグループホーム連絡会への参加やまた、研修への参加を積極的にし、つながりを築くよう取り組んでいる。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束における具体的な行為」について職員共有スペースに貼りだし、常に確認できるようにしており、拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「身体拘束における具体的な行為」を掲げ、また積極的に研修への参加をうながしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症指導者である副代表による内部研修や外部研修への参加を積極的にし、発表の場を設け話し合いをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時には十分な話し合いをし、納得した上で契約していただいている。また、不安や疑問点はその都度話し、改定の際も納得した上で行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、その都度近況や状態を説明し、意見や要望があれば聞いている。また、「意見箱」も設置している。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話やスタッフ会議で職員の意見や提案を聞き、管理者は幹部会議で代表者に者に伝え聞きいれていただいている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の目標やスキルアップを進め、それにより手当てをつけたり外部研修への参加を多く設け向上心を図っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの実際と力量にあった研修を進め、また発表の場を設け、話し合うことで共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	各研修、講習会への参加や研修生の受け入れをすることにより、同業者との交流する機会をつくっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること不安なことなど会話やしぐさから掴み、安心して生活できるよう努めている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族が困っていること不安なこと要望等をよく聞き、入所後は面会時等に話す機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームでの解決が可能であるか判断をし、スタッフ間でも話し合いをする。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のできること、したいことに応じながら生活の中の手伝い（食事作り・洗濯たたみ等）を共に行ったり、会話の中で教わることもあり、暮らしを共にする同士の関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の時間も大切に、面会時や家族の集まり時には気軽に不安なこと要望など聞ける場面を作っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間、外出、外泊などの制約なくいつでも気兼ねなく来れるようにしている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりあうレクレーションやくつろぎの場を作り、時には職員が間に入ることで新たな関わりあいが出るよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られても、医療面では運営者（Dr）が家族の相談にのったり、介護面でもいつでも相談にのるよう努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話から暮らしの希望や意向を伺ったり、表情から読み取る努力をし、日常の業務時に話したり、会議を設け話し合っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の会話や家族からの会話の中から生活歴、趣味などの情報を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康管理をし、一人ひとりのくせや表情から変化を見逃さないように努めている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の希望、家族の要望をふまえ、医学的な判断はDrから聞き、会議を開き職員間で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は色分けをし、誰が見てもわかり易くしている。日々の変化を職員間で話したり、会議を設けることで共有し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的に往診や訪問看護をしており、急変時には併設クリニックにての対応ができています。また、訪問マッサージや歯科などのサービスも取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さん、ボランティアさん、地域包括さんとも密に連絡を取り合い、地域との関わりをできるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックがかかりつけ医になり、いつでも相談や受診ができるようになっていく。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護を行っている。また、併設クリニック看護師とも信頼関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は併設クリニックDrと入院先Drと連絡をとっていただき、職員とも相談の上早期退院できるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期になっていく段階から家族、職員の間で話し合い、Drと相談しながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でDrや看護師からありそうな問題の応急処置や知識を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署に来てもらい、防災訓練をするなど、毎年行っている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩」という意識を持ちながらも気兼ねなく過ごせるような言葉使いや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で自己決定できる場面を作ったり、(飲み物の選択・おやつを選択)意思疎通の難しい方はジェスチャーや表情から読み取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはだいたいあるが、その日の天候や体調、希望を聞きながら散策や日向ぼつこの参加を促している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは本人の好きな服装、好きであろう服装に着替えていただいたり、訪問美容に来ていただき、本人が望む髪型(パーマ等)していただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの力に応じて準備や片付けを共に行ったり、普段の会話の中から好きなものを聞いたり季節感のあるものを取り入れたりしている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食、ミキサー食、塩分ひかえめな食事の提供、またその人それぞれのペースにあわせた食事の時間の調整、毎食汁物をいれたり、見た目の量を多くする工夫などで、食べる量を調節したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声かけや援助、介助、毎日義歯の洗浄を行い、食事時の様子観察し必要に応じて歯科の受診、定期検診をそしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力に応じたパットやリハパンの使用、排泄パターンの把握をし、できるだけトイレでの排泄を行なえるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分の提供、バランスの取れた食事の提供をし、毎日の排便確認、記録をし、パターンや医師へ相談しながら服薬調整を行い、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望や体調にあわせた入浴へのお誘いをし、冬には入浴剤を入れたり、季節ごとの行事（ゆず湯や菖蒲湯）等取りいれ楽しんでいただいている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気温や室温に気をくばり、一人ひとりの体調や習慣などに応じて就寝時間を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも閲覧できる所におき、それぞれが使用している薬の目的等職員は理解し、日々の様子から症状を読み取るよう努めている。また、わからない時は医師に説明していただいている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散策・買い物・レクリエーションなど日々の生活の中での役割や楽しみ事を支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散策や日向ぼっこへ戸外に出たり、家族や友人との外出をいつでもできるようにしている。また普段いけない行事（いちご狩りや温泉）等も企画している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者さんの中にはお小遣いを持っていて、希望に応じて買い物に行く機械を作ったり、またこちらで買ってきたりしている。		

グループホーム港南

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さんの中には携帯電話を持ってられる方もおり、家族といつでも連絡を取れるようにしている。また手紙をかかれる方もおり、やりとりができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	心地よい温度や湿度の調整を行い、落ち着いた家具やカーテンを配置し、また季節感のある飾りつけ等もおこなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士や場面において配慮した席を設けたり、廊下や玄関にも椅子を置き、時には独りになれる所も作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみのある家具や使い慣れた布団等持ち込んでいただき、本人が居心地よく過ごせるよう家族、本人と相談しながら配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はクッションフロア、居室は畳を使用し、一人ひとりに応じて手すりをつけたり、できるだけ自立した生活を送れるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム港南

作成日

平成22年1月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	運営規定に「緊急やむを得ない場合」とあるが、夜間など上司が不在の場合判断に迷うときには具体的にすぐ対応できるよう、職員が閲覧できる体制が不十分である。また、その記録のみの書式がない。	実際に緊急の場合はオンコールで携帯による連絡網はあるが、万が一繋がらないときのために具体例を記述し、職員全員が周知する体制をつくりたい。	1階2階ともにフロアに「緊急やむを得ない場合」の具体例と対応を明記した書類を配置する。また、具体的に対応した場合の記述をする書式を作成する。	1ヶ月
2	18	日常的な外出支援では近隣の公園やドライブ、家族とともに外出したりと行ってはいるが、個人個人の希望による外出の支援はなかなかできないのが現状である。	今後は一人一人に対しての希望で外出支援のできる様、時間を作りたい。訴えができない利用者にも本人の思いを引き出しながら支援していきたい。	それぞれの入居者の方に、担当職員が対応し、本人の行きたいところへの支援をする。「計画書」を作成して、予算や日時を決め施設長に報告し実行する。担当職員の不在の間の業務は施設庁が代行する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。